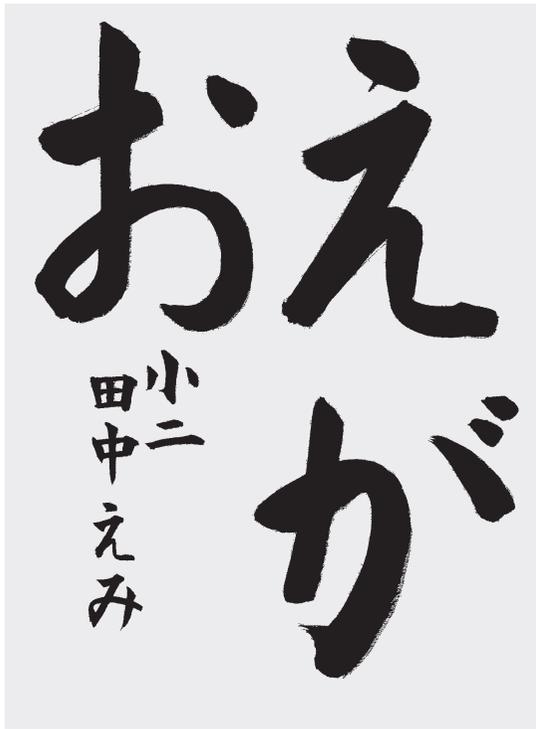


〔11月6日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏名」を本人が書く。  
(幼・小1の方は、学年を書かなくてもよい。)

小学2年参考手本



田村 鄭雲先生

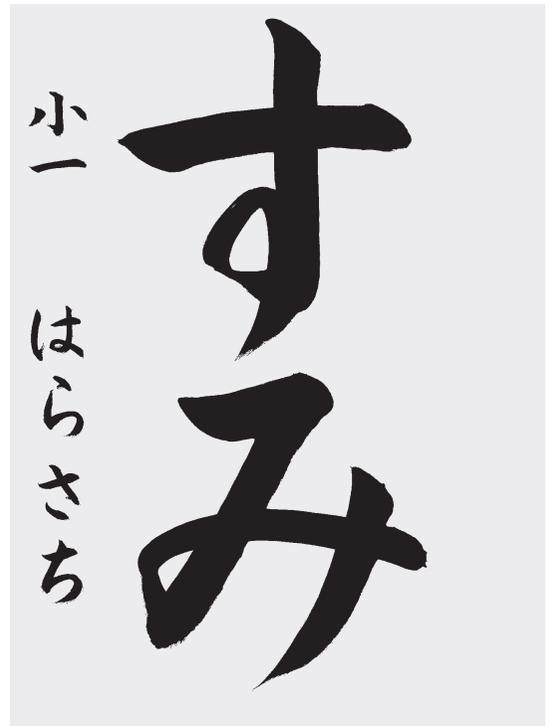
幼・小学1年参考手本



大平 邑峰先生



田中 扇溪先生



小竹 石雲先生

〔11月6日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏名」を本人が書く。

小学4年参考手本

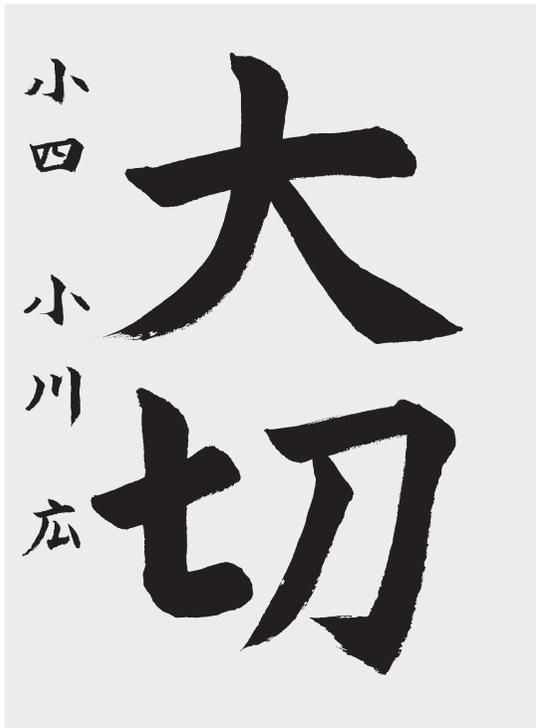


坂本素雪先生

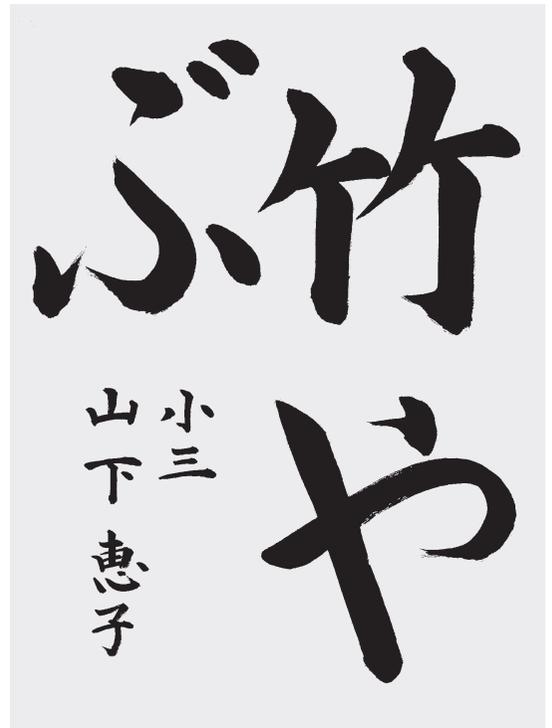
小学3年参考手本



崎井恵風先生



山口仙草先生



東福青篁先生

〔11月6日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏名」を本人が書く。

小学6年参考手本

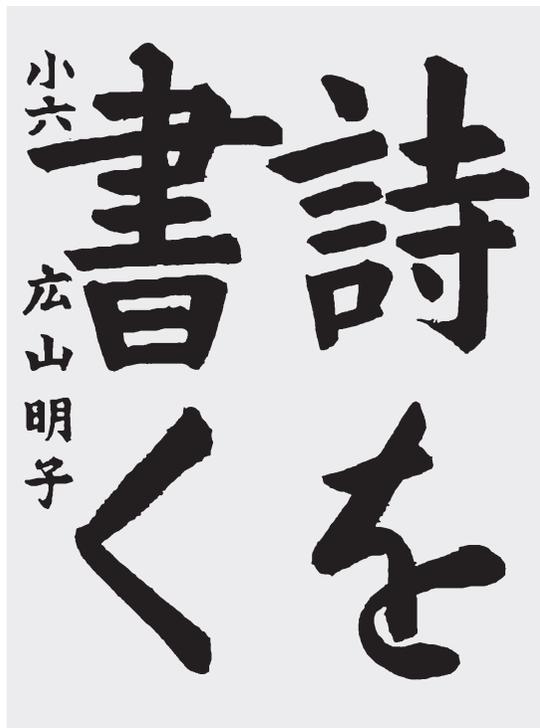


小 浜 大 明 先 生

小学5年参考手本



工 藤 永 翠 先 生



広 瀬 舟 雲 先 生



名 越 蒼 竹 先 生

〔11月6日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏名」を本人が書く。

中学全学年参考手本（中学生は、どの課題を書いてもかまいません。）

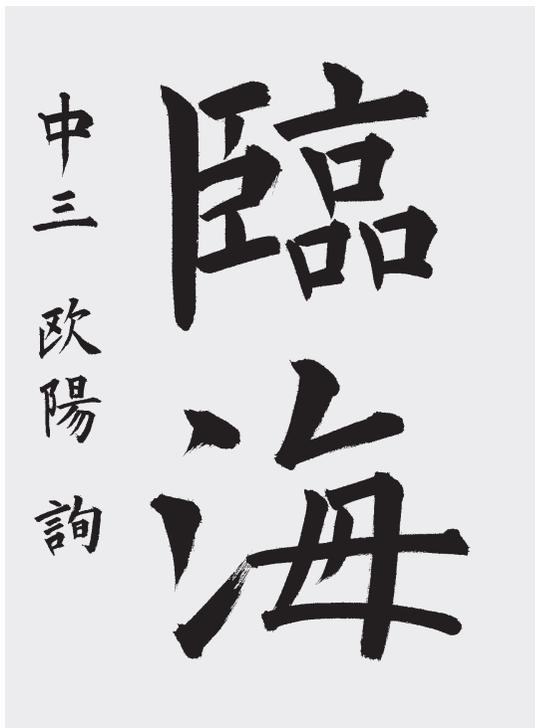


下谷洋子先生



辻元大雲先生

古典の名跡には現在の楷書とは異なった字形の文字があります。これを異体字といえます。「臨」の8画目が点に。「海」の2画目の点に「はね」があり、4・5画目が連続し、7画目の「はね」がありません。



種谷萬城先生



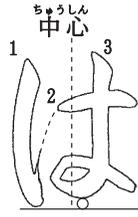
九成宮體泉銘  
(中国唐時代)  
歐陽詢

●有名な古典の名跡に挑戦してみよう

発展〔中学生〕

# 毛筆参考手本解説(1)

1年



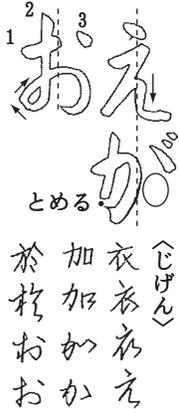
波波波は  
 〈じげん〉

は(ゴ)は明)は(教)

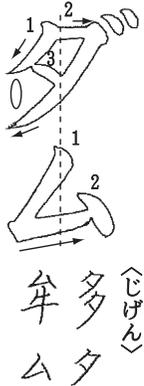


すみ(ゴ)すみ(明)すみ(教)

2年

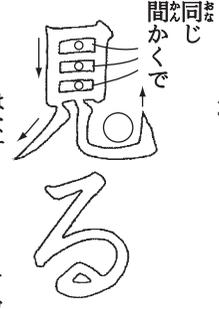


えがお(ゴ)えがお(明)  
 えがお(教)



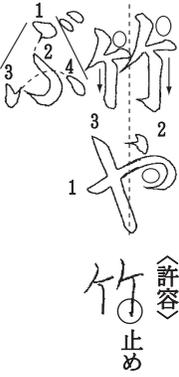
ダム(ゴ)ダム(明)ダム(教)

3年



鬼  
 〈許容〉 はなす  
 〈ひつじゅん〉 留留るる

見る(ゴ)見る(明)見る(教)



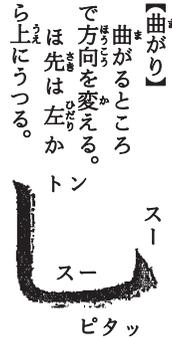
竹  
 〈許容〉 竹止め

竹やぶ(ゴ)竹やぶ(明)  
 竹やぶ(教)

4年



月光(ゴ)月光(明)月光(教)



曲(ゴ)曲(明)曲(教)

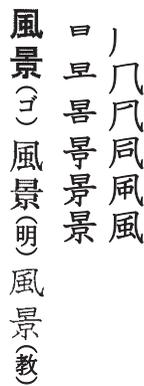


大切(ゴ)大切(明)大切(教)

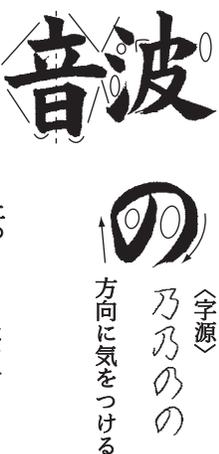
5年



風景(ゴ)風景(明)風景(教)



音波(ゴ)音波(明)音波(教)



波(ゴ)波(明)波(教)

波の音(ゴ)波の音(明)  
 波の音(教)

活字と手書き文字の違いに気をつけて書きましよう。  
 ゴシック体(ゴ)・明朝体(明)・教科書体(教)・HGP行書体(H)



〔11月6日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏名」を本人が書く。

小学2年

幼・小学1年

硬筆参考手本

活字と手書き文字の違いに気をつけて書きましょう。ゴシック体(ゴ)・明朝体(明)・教科書体(教)・HGP行書体(H)

支 部 名	本		お話をよんで、		絵	
段・級	を		を			
学 年	作		を			
名 前	り		よ			
	ま		ん			
	し		で			
	よ		、			
	う					
	。		絵			

支 部 名	は		じ		ど	
段・級	し		と		う	
学 年	っ		車		が	
名 前	て		が			
	い		が			
	ま		が			
	ま		が			
	す		が			
	。		が			

「車」をただしくかきましよう。  
てんのいちにちゅうい  
のびやかにほらう

「じどう車」  
「車」をただしくかきましよう。  
てんのいちにちゅうい  
のびやかにほらう

「車」  
ながく 車(ゴ)車(明)車(教)

「つ」  
そくおん つ(ゴ)つ(明)つ(教)  
(小さくかく字)の  
いちにちゅうい

「絵本」  
「へん」と「つくり」の組み立てにちゅうい  
して字形を正しく書きましよう。

「作」  
しゅするいち  
せにちゅうい  
作(ゴ)作(明)作(教)

「絵」  
「へん」  
「つくり」  
糸絵給絵給絵給  
イイ作作作  
作(ゴ)作(明)作(教)

「話」  
よこが出る  
下が出る  
話(ゴ)話(明)  
話(教)







# これからの作品締切日と課題

令和5年12月号～6年3月号までの作品締切日と毛筆課題

中学生 (全学年共通)		小6	小5	小4	小3	小2	幼・小1	締切日	
晴耕雨読	曲水(蘭亭序・臨書)	海岸線	星ふる夜	千歩	広がり	つばさ	き	12月4日	12月
見聞を広める		楽しい声	絵画	冬ごもり	夕やけ	かもめ	ふゆ		
心機一転	恵風(蘭亭序・臨書)	固い決意	百人一首	生きる力	たつ年	おせち	ね	1月8日	1月
炭を継ぐ		観察力	理想	新春	はつゆめ	ぞうに	もち		
暗中模索	先聖(孔子廟・臨書)	お手伝い	文庫	自由	よろこび	ゆびわ	む	2月7日	2月
美しい梅林		世界旅行	道路	点画	図工	ポスト	やま		
千変万化	風雲(孔子廟・臨書)	希望の春	約束	発表	花だん	きずな	せ	3月10日	3月
わかなつむ		平和運動	周囲	美しい花	気	ビデオ	てん		

12月号の硬筆課題 ※硬筆課題は、翌月課題のみ掲載しております。

幼・小1

わ	手
をつ	をつ
く	つ
ろ	な
う	い
。	で

小 2

を	かん
イ	字
ラ	の
ス	なり
ト	立
で	ち
学	
ぶ	
。	

小 3

家	森
ま	の
で	小
走	道
り	を
ま	通
し	っ
た	て
。	

小 4

新	を	今
聞	記	ま
」	事	で
を	に	体
作	書	験
り	き	し
ま	、	た
し	「	こ
た	自	と
。	分	

小 5

で	イ	も
活	ブ	う
気	。	す
に	商	ぐ
満	店	ク
ち	街	リ
て	は	ス
い	セ	マ
る	ー	ス
。	ル	

小 6

よ	れ	海
う	、	は
に	あ	深
暗	た	い
く	り	き
な	は	り
っ	夕	に
た	暮	包
。	れ	ま
	の	

中学生

に	持
関	続
心	可
を	能
持	な
ち	未
た	来
い	の
	た
	め
	に
	S
	D
	G
	s



# 書写を知り 学び楽しむ



広瀬舟雲先生

講師の広瀬舟雲先生は、武蔵野大学教育学部教育学科・教授、全国大学書写書道教育学会副理事長、(公財)書道芸術院評議員です。著書に「刻された書と石の記憶」、共著に「国語科書写の理論と実践」などがあります。

## 第80回 身の回りの書6・老舗の看板2

今度は、大きく立派なケヤキの板に楷書で右から左に向かって堂々と揮毫された東京の老舗の看板です。書を刻した所には緑色の顔料(絵の具)、雅印の印影を刻した所には赤色の顔料が入られています。東京が江戸と呼ばれた頃から代々続く老舗筆墨硯紙店として有名な九段下・神保町の玉川堂の看板を紹介します。書は、丹羽海鶴「文久三(1863)〜昭和六(1931)・68歳」が揮毫したものです。本名は正長、字は寿郷、日下部鳴鶴に師事しました。明治から昭和初期にかけて活躍した書家で、最初は師の影響を受けて六朝風な楷書を書きましたが、のちに中国・初唐時代の楷書、なかでも褚遂良の「孟法師碑」を基とした書を得意としました。この看板の「玉」字の右下部の横画の長さしと点の位置が現在の字形と異なっていますが、王献之の書をはじめ、六朝時代の書には時々見られる字形で、これを異体字といいます。この書風は、孟法師碑を基としつとも六朝の強い線の影響が感じられます。海鶴は、学習院や東京高等師範学校の講師、文部省教員検定試験委員などを歴任し、教育の世界へも大きな影響力を及ぼした人でした。この看板の落款に「昭和戊辰冬日」とあることから昭和三年の冬、海鶴晩年の気が充実していた頃(65歳)の書ということになります。

現在の書道展の刻字作品に用いられる木材は、木の肌が緻密で刻すのに比較的柔らかい「桂材」を用いることが多いようですが、昔の看板は、製材すると木目がしっかりと浮き出て、固く丈夫な「ケヤキ材」を用いることが多かったようです。玉川堂の看板は長方形の板に製材されていますが、ケヤキ材の

場合、木材の両脇を幹の樹形のままにして用いる場合もありました。

原始人が絵を描くとき、茶色は泥を、黒色は燃え残った木の炭を用いました。自然の中には色のきれいな石や貝の殻(白色を作る材料となる)などがあります。昔の人たちは、これらを細かく砕いて粉にして、油や膠の液などに混ぜて用いました。現在でも自然の石や鉱物などを砕いて作られた顔料が画材店で売っています。しかし、色によって価格の差があることが分かりました。泥を用いて作られる茶系が一番安く、逆に藍銅鉍(アズライト)を用いて作る群青色と、孔雀石を砕いて作る緑色が高価だそうです。これらは希少な石が原料だからです。現在では、ほとんどの絵の具は、合成染料を油で捏ねて作られています。しかし比べてみると昔の顔料の方が色が鮮やかで変色しにくいことがわかります。壁画や日本画・老舗の看板のなかで生かされています。この点も見所です。



今月のホープ



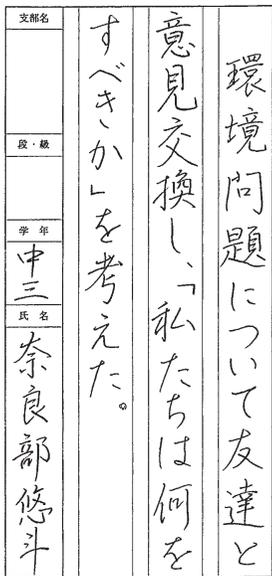
小六 平方 澪 (白流書院)

自然に筆を動かしているが、一点一画確かな筆使いで名前まで美しく書き上げました。日頃の学書の賜物でしょう。



小四 芦澤拓巳 (千城)

丁寧で着実な筆使い。紙面の使い方が良く、字形や左右のはらい、名前も落ち着いた書きぶりで大変見事です。



中三 奈良部 悠斗 (千葉)

一字一字の線質もよく、行書の次につながる字形を大切にシバランス良く書き上げました。中学生のお手本となるような硬筆作品です。



小二 山下華世 (光峰)

点画がしっかりしていて、マスいっぱいのにびやかな線せんで大きく堂々どうどうとした、さわやかな作品さくひんになりました。

# 第57回高野山競書大会（会場風景・表彰式風景）

展示：総本山金剛峯寺 別殿

表彰式：高野山大師教会本部大講堂



表彰式 風景①



表彰式 風景②



表彰式 風景③



表彰式 出席者記念写真

幼・1年

き  
小一 山川かほ

ふゆ  
小一 みうらまこゆき

2年

さつば  
小二 さか本りん

めかも  
小二 田中えり

3年

り広が  
小三 川口ゆい

けつや  
小三 山田和子

4年

千歩  
小四 川口はな

冬もりご  
小四 田中小春

5年

星ふ  
小五 美空光

絵画  
小五 自次時成

6年

海岸線  
小六 平山そら

い楽し  
小六 清水和美

中学

曲水  
中三 山川貴子

雨晴耕  
中一 山下知

見聞を  
中二 小田清子

編集余録

○第57回高野山競書大会が8月1日～8月15日まで和歌山県の高野山・総本山金剛峯寺で、8月25日～8月27日まで東京都港区の高野山東京別院で行われました。今月号では8月4日に高野山・総本山金剛峯寺で行われた表彰式の風景の写真を紹介します。○今月も中学生の課題は、唐・歐陽詢（557～641）の書「九成宮醴泉銘」です。「九成宮醴泉銘」は、唐の太宗が、避暑地の離宮の九成宮から、甘い湧き水が出たことを喜んで、当時の学者魏徵に文を作らせ、欧陽詢に字を書かせた石碑の書です。石碑や金属器などに刻された文字や模様を、墨を使って紙に写し取ったものを「拓本」といいます。凹んでいる部分は白く、出っ張っている部分は墨の影響で黒く浮かび上がります。※3ページの参考手本の脇にある「海」は拓本です。現在では、コピー機やカメラで物の形や模様を写すことができますが、昔は拓本を使って記録していました。臨書をする際、手本となる古典に拓本を使うことが多く、特に古代中国に書かれた書の大半は石碑であるため、手本も必然的に拓本となります。拓本をよく観察し、特徴を捉えて臨書してみてください。

（悠輝）